

議会だより

令和4年5月20日発行 / No.149

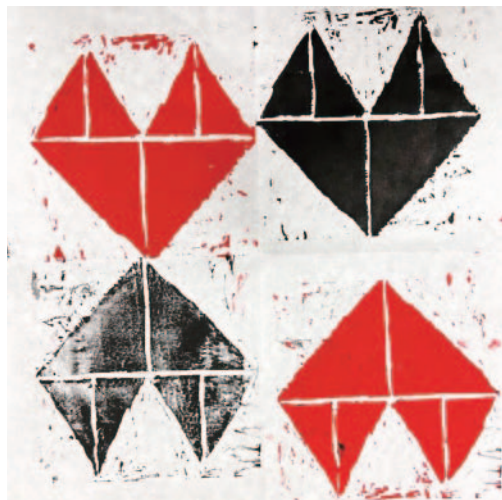


2022年
3月定例会
から

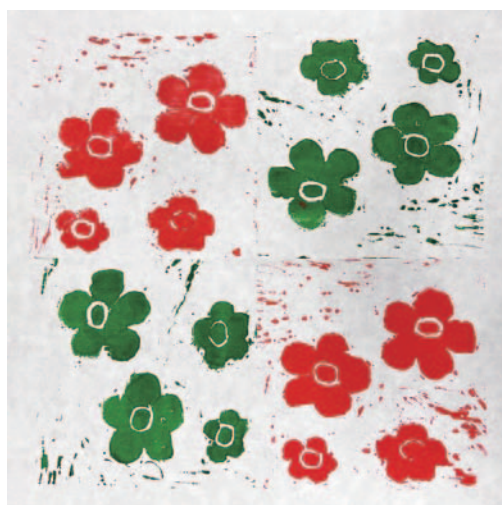
令和4年度一般会計予算 2
一般質問 8
住民と議員の意見交換 13
原村での子育てを考える 14

原小学校5年生の作品

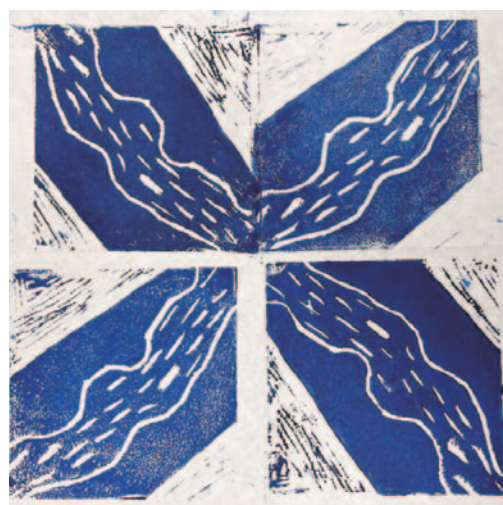
「ハートのうらがわ」 高橋 由衣さん



「いろんな形」 五味 紫穂さん



「花」 篠原 一花さん



「川」 真子 颯亮さん



原村議会の情報は
ホームページからも
ご覧いただけます



「マチイロ」
アプリからも
ご覧いただけます

令和4年度一般会計予算
42億1,600万円

成長の

基

盤

を創る

令和4年度 一般会計予算歳入は、個人及び法人の総所得金額等が増加傾向であることから昨年度比3・6%増の7億5千万円の歳入を見込み、昨年度比10・6%増の基金繰入れ約4億5千万円を行った。歳出では、性質別の人件費が全体の23・9%、10億を超えた。

歳出の主な新規事業は、公共交通実証実験やワイン特区の認定に伴うワイン産業の推進補助金、頻発する自然災害に備えるための防災拠点整備など、第5次原村総合計画基本目標達成に向けた予算要求に基づく「成長の基盤を創る」編成となった。成長の基盤を創れるのか、予算執行状況を注視していきたい。

議会費は、議場音響設備改修に306万円の増額、議員11人の報酬・期末手当・費用弁償額は3千634万円の予算。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、村長提出議案17件、議員発議3件と追加補正予算1件が提出され、可決した。また、「ロシアによるウクライナ侵攻に対する非難決議」を決議し、陳情2件の審議と意見書提出を行った。

公共交通実証実験

500 万円

平成25年の本運用から10年が経とうとする中で、原村の現状に合う公共交通を検討するため一つの方法として、実証実験を行う。

近隣のライドシェア実証実験の例から500万円を計上したが、ライドシェアは難しいため予算内でオンデマンドを実施し、今後の公共交通システムのあり方を検証する。予算は主にタクシーの借上げ代に使用される。



ギカイ
の
シテン

今年度500万円の予算化をしたが、この金額で実証実験は十分出来るか疑問もある。茅野市との友好的な実証ができるとともに、今後の公共交通の利便性向上に期待がかかる。

基

盤

合葬式墓地設計管理委託

150 万円

従来からのお墓は今後継承・管理が難しくなっていくという声が住民から上がり、村では昨年住民から意見を募った。将来お墓の管理維持に不安を抱くことのないような合葬式墓地の建設を検討、今年度は意見聴取や説明会、建設場所の選定及び設計を行う。

住民アンケートより

- ・ 村営共同墓地の個人利用ニーズがなくなっている。
- ・ 移住するにあたり墓じまいをしてきた。
- ・ 墓地を管理してくれる後継者がいない。
- ・ 合葬式墓地に対するニーズは確実に高まっている。

ギカイ
の
シテン

現在は村営墓地の区画も埋まらない状況もある。価値観の変化、移住者を含めて共同的墓地でも良い等社会的ニーズの変化に答えて、合葬式墓地の建設の要望が増えているので、議会でも今後推進して行きたい。

を
整
え
る

農業の

基

盤

を強く太く

経営継承・発展等支援事業 (100万円 1回のみ) 300万円



農業における後継者不足は原村でも大きな課題となっている。将来にわたって地域の担い手農業者を確保できるよう支援する。

中心経営体である先代経営者から経営移譲を受けた後継者に、農機購入などを支援・補助する。

ギカイ の シテン

要綱にある農業後継者育成事業定義（2）親元就農等の「配偶者」とは子又はその配偶者が対象であり、夫婦ともに対象になるわけではない。多様な人材が後継できる制度となることを願う。

6次産業化支援事業補助金 300万円

ワイン用ぶどう苗木等購入補助 120万円

6次産業化の推進に必要な機械器具・施設整備の一部を補助（経費の1/3以内・上限100万円）し、農業者の所得向上、経営規模拡大、農産物の高付加価値化を促進する。

6次産業化とは

6次産業化とは、1次・2次・3次それぞれの産業を融合することにより、新しい産業を形成しようとする取り組みのこと。生産者（1次産業者）が加工（2次産業者）と流通・販売（3次産業）も行い、経営の多角化を図ることとも言える。

さらにワイン用ブドウ栽培を促進するため、ワイン用ぶどう苗木購入及びトレリス等の資材購入に対し補助（経費の1/3以内・上限20万円）を行う。



ギカイ の シテン

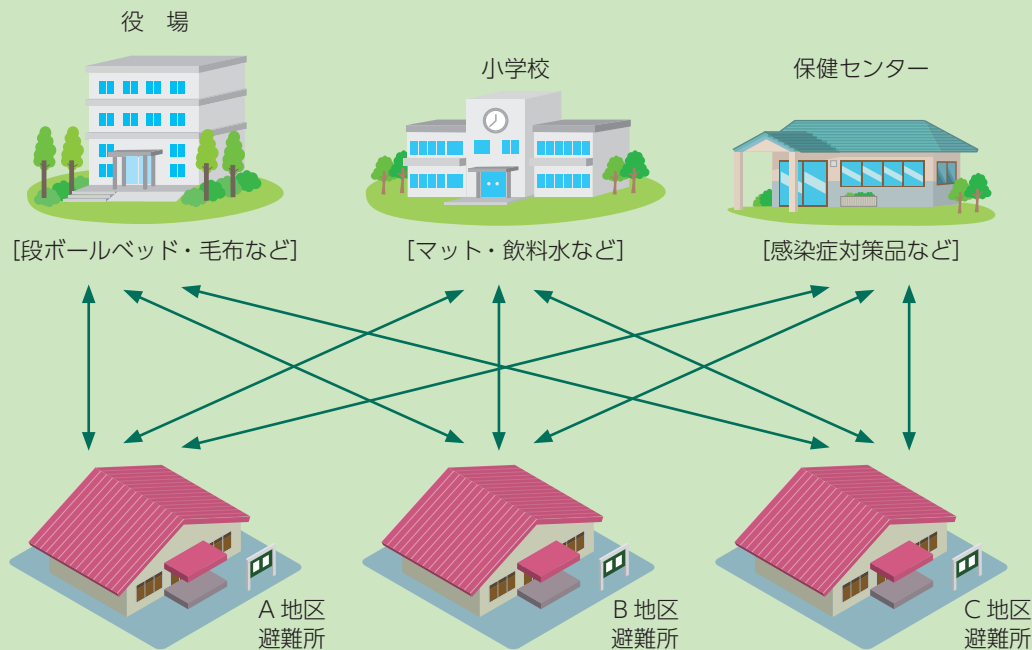
新しい産業が村のブランド力と認知度を高め、産業振興に寄与することを期待する。

防災倉庫実施設計業務委託

767 万円

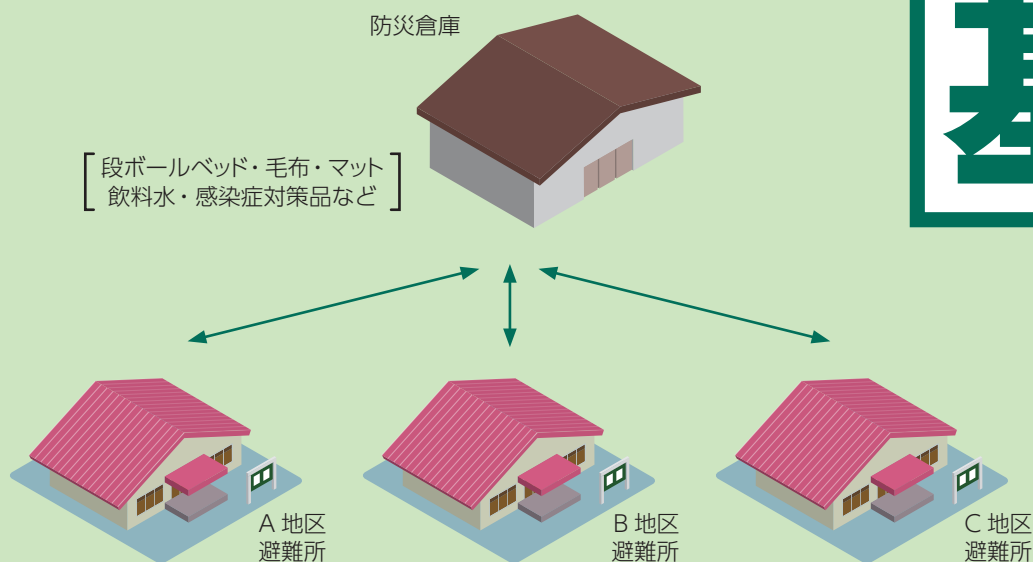
災害に対する

- 現在の状況 避難所に必要な備品が役場、小学校、保健センターなどに分散しており、緊急時にはこれらを複層して持ち出すこととなります。
※備品はこの他に自然文化園、樫の木荘にも一部あります。



■防災備品を1ヶ所に集約できると

避難所へ配備するものが一元管理でき、かつ移動も複層せずに済みます。



基

盤

整備

ギカイ
の
シテン

災害時を想定した場合、設置場所と倉庫規模、車両の一方通行による搬出等、動線のシュミレーションはできているか、一元管理で本当に良いのか、複数拠点は必要ではないか。設置場所(案)について、役場、消防署近辺で連携の取りやすい200平米くらいの倉庫を想定しているが、災害時に混雑しないで機能できる場所の選定を。

賛否が分かれた議案等

○は賛成、×は反対、△は趣旨採択又は一部採択に賛成、▽は退席、―は欠席、議長は可否同数時のみ裁決する。

		結 果	半 田 裕	中 村 浩 平	宮 坂 早 苗	佐 宗 利 江	森 山 岩 光	松 下 浩 史	平 出 敏 廣	北 原 貴 穂	宮 坂 紀 博	百 瀬 嘉 徳
議案 第1号	原村総合計画審議会条例の一部を改正する条例	可決	○	×	○	○	○	―	○	○	×	○
議案 第5号	原村道路線の廃止及び認定	可決	○	×	○	○	○	―	○	○	×	○
発議 第1号	「水田活用の直接支払交付金」の見直しを白紙に戻し、再検討することを求める意見書案の提出 《提出者 原村議会議員 松下 浩史》	可決	×	○	○	○	○	―	○	×	×	○
発議 第3号	75歳以上後期高齢者医療の窓口負担2割への引き上げを新型コロナウイルス感染症が収束するまで慎重な対応を求める意見書案の提出 《提出者 原村議会議員 宮坂 早苗》	可決	○	○	○	×	○	―	○	×	×	×
陳情 第1号	75歳以上高齢者の医療費窓口負担の現状維持を求める陳情書 《提出者 諏訪地方社会保障推進協議会 会長 毛利 正道》	不採択	×	○	×	×	○	―	○	×	×	×
陳情 第2号	「水田活用の直接支払交付金」の見直しの中止を求める陳情書 《提出者 諏訪農林センター 代表者 菊池 敏郎》	採択	×	○	○	○	○	―	○	×	×	○

「水田活用の直接支払い交付金」の見直しの中止を求める陳情書

深刻な米価下落対策に十分な対策をとらないまま、昨年11月19日、新たに26万トンの主食米生産数量を削減する計画を発表し、同時に2022年から「水田活用の直接支払交付金」を見直すことを発表した。その内容は、2022年から2026年の5年間に一度も米を作らなかった水田を「水田活用の直接支払交付金」の対象から外すというものである。

これが実施されれば、そば、野菜、永年作物や牧草地利用など、転作に協力してきた農家への打撃が非常に大きい。よって減反を拡大する一方で長年にわたって協力してきた農家を交付金の対象から外すものであるから、見直しは行わないことを求めるもの。

反対討論

- ・農家ばかり優遇されている。
- ・減反補助を当てにしない農家を育成すべき。

賛成討論

- ・原村では、一度水田に戻すとそば、野菜の作付けに支障が出る。
- ・転作補助金がなくなると、転作をあきらめ遊休荒廃農地が増える。

陳情を採択し、「国に白紙に戻し再検討することを求める意見書」を提出した。

75歳以上高齢者の医療費窓口負担の現状維持を求める陳情書

本年6月4日国会では、75歳以上高齢医療費窓口負担2割化法が可決された。75歳以上の高齢者で単身者の場合年収200万円（複数世帯の場合、年収合計が320万円）以上の場合、医療機関の窓口で支払う自己負担金を現行の1割から2割へと引き上げるものである。新型コロナウイルス感染症拡大のもとで、高齢者の受診控え、介護サービスの利用控えが起きている。高齢者の暮らしと健康、命を守るために国に対し、現状維持を求めるもの。

反対討論

- ・年収が単身者200万円、複数世帯の年収合計320万円以上の方が対象であり生活できる金額と考える。
- ・現状では、国と現役世代の負担割合が9割になっている。誰かが負担しなければならない。今後、制度を維持して行くには受益者負担はやむを得ない。

賛成討論

- ・高齢者は複数の診療科、医療機関にかからざるを得ず、受診回数も増え年収に対する窓口負担割合が大きい、現状維持で考えるのが妥当だ。
- ・窓口負担が2倍になるということ。長年、生きるために辛く苦しい経験をされてこられた方々に対して、この対応は看過できない。

陳情は不採択であったが、国民への周知が進まないこと、感染症が収束するまで慎重な対応を求める意見書を提出した。

原村道路線の廃止及び認定について

道路法第8条2項及び10条1項の規定に基づくもの。
中新田地区内圃場の基盤整備事業による形状変更に伴う廃止と公衆用道路として換地された3路線の認定審査。

賛成討論

- ・圃場整備を行った上での廃止と認定、目的に応じた道路幅と延長である。
- ・村が新しく認定する道路として要綱の基準を満たしている。

反対討論

- ・認定基準を満たしていない。
- ・幅員、形状、路面等が要件を満たしていない。村が新設する道路には要件がないのが理解できない。

審議より

- 問** 認定する路線は、再生クラッシャーラン10mの路盤だが、大雨時など大丈夫か。
- 答** 災害があったときは村が対応する。日頃の管理は耕作者に願う。
- 問** 路線番号7266の部分に障害物により通行できない箇所があるが、今後どう対処するか。
- 答** 設置者には、適正な指導をする。

ギカイのシテン

審議では「村が認定基準を満たしているか」ということが争点となった。道路法による道路行政を行っているが、大正8年に施行された旧道路法による認定道路を現在も引き継いでいる関係で、日本全国には4メートル未満の道路も多い。認定基準は本村以外の者が設置した場合についての要件を定めている。村が新しく設置する場合は、村が新設した道路、廃止路線見直し後の道路、特例として村長が特に必要と認めたものとあり、認定基準が明確に示されていないのが現状。

今後、様々な事業で新設される道路も予想される中、道路が安全な避難経路、緊急車両の進入経路および人々の生活を豊かにしてくれるものであるために、多様な視点で議論を尽くしていく。

一部事務組合予算総額・原村負担金内訳

単位：千円

会計別		総額	原村負担金
諏訪広域連合（6市町村）			
一般会計		354,552	11,923
特別会計	救護施設ハヶ岳寮	351,333	443
	介護保険	20,313,639	126,756
	諏訪広域消防	2,568,941	144,810
	諏訪地域ふるさと振興基金事業	13,069	—
諏訪南行政事務組合（原村・茅野市・富士見町・諏訪市）			
一般会計		165,735	7,139
特別会計	ゴミ処理特別会計	638,767	76,043
南諏衛生施設組合（原村・富士見町）			
一般会計		136,050	42,577
諏訪中央病院組合（原村・茅野市・諏訪市）			
病院事業		10,815,923	75,111
老人保健施設		432,322	170
看護専門学校		150,465	9,636
介護老人福祉施設		469,385	—
諏訪広域公立大学事務組合（6市町村）			
一般会計		1,897,312	108

市町村単独では実施が難しいものや、共同で実施したほうが効率的な事業や施設運営を行う組織です。原村に関係するものは左表の5組合があります。原村議会からも各組合の議会に議員として参画し、また、村では運営に必要な費用を負担しています。

令和4年度各事務組合予算

3月 定例会

一

般

質

問

一般質問とは、議員が村政全般にわたり、執行機関である村に対して、事務の執行状況及び将来への方針などについて疑問点をただし、報告、説明を求めることです。
3月定例会では8人の議員が登壇し、村政課題への提言や質問を行いました。ここではその主な内容（質問と回答の要旨）を掲載します。

中村 浩平 議員	- 生活困きゆう者対策と孤独対策の必要性の提言 - 区長（行政囑託員）等の候補者推薦は公平・公正な選挙をゆがめるが - 村表彰規則を変える必要性があったのか、その目的は
北原 貴穂 議員	- 製造業・建設業の振興施策 - D M O - 住民からの要望事項
森山 岩光 議員	- 消防団活動支援策と再編成（令和3年3月定例会一般質問にて）の再質問 - 村政施行150周年 - 村内の通学路・歩道設置状況は
半田 裕 議員	- 学校応援団の活用を - 原村保育の必要性等の認定に関する規則の一部を改正する規則について、労働時間の下限を48時間から64時間に改める件 - 原村の特色のある教育の実現のため、原村学の充実を
佐宗 利江 議員	- 原中学校正門前安全管理 - 庁舎駐車場整備 - 村内宿泊者に対するもみの湯補助
松下 浩史 議員	- 原村学「原中ワイン」をふるさと納税返礼品に - 公共交通、今後どうなる - コロナ第6波における対応
宮坂 早苗 議員	- 農地の取得しやすい環境と有効活用及び新規就農者確保に向けたさらなる取組みを進める考えは - 事業継承の支援体制を考える必要があるのでは - デジタル社会に対応したサポート体制の環境と整備を進める考えは - 新たな電気自動車充電設備を設置し、日本一きれいな空気の村にする考えは
平出 敏廣 議員	- 原ブランド特産品事業 - 各地区からの道路整備は住民等に説明を - 小学校保護者からのタブレット端末に関する要望 - 乳児保育園村の考えは

・一般質問は事前に質問内容を通告することになっています。
・質問時間は1人につき質問答弁を含め60分以内で完了することとされています。
・一問一答方式が採用されており、1項目につき2回まで再質問ができます。
・一般質問全文の閲覧および検索は村ホームページから行えます。



中村 浩平 議員

福祉

問 生活困窮・孤独対策が必要

答 実施体制の整備を進める

保健福祉課長 令和6年度から「重層的支援体制整備事業」を実施できるよう準備する。令和4年度には75歳以上の住民を対象にアンケートを行う予定。

問 住民が日々の暮らしの中で困っている事や悩んでいる事を解決するため、「重層的支援体制整備事業」を実施する必要がある。また既に村内の3分の1が単独（一人）世帯であり、孤独対策も急務である。実態調査を含め取り組む必要があるが。

問 区長が区民の承諾なくその職名において特定の候補者を推薦した事実を確認している。この行為によって当該候補者は区の公認候補となり、区民の投票に重大な影響を与えるとともに、公平・公正な選挙をゆがめてしまう。そもそも区長が候補者を推薦すること自体が区の規約違反であり、区民はそんな権限を区長にゆだねていない。このため他の自治体では、『公平な選挙をゆがめる自治会推薦はやめましょう！』と積極的にアピールしている。

誰でもが自由に選挙に出馬して、そして有権者は区長や区の影響を全く受けずに、自分の意思だけで投票できる村に、みなで本気になって取り組むべきと考えるが。

選挙管理委員長 特定の団体からの働きかけによって、個人の意思による投票が阻害されることがないよう、注意喚起と啓発活動を積極的に実施する。

選挙

問 区長の候補者推薦は問題

答 啓発活動を積極的に行う

産業振興

問 工業分野への振興施策は

答 コロナ禍の影響は幅広い

問 長引くコロナ禍で観光・飲食業に手厚い支援が行われ、感謝の声がある。一方、支援の対象とならない製造業や建設業から不公平感を訴える声もある。このような不公平感を解消する方策は。

村長 雇用への貢献度・経済波及効果など地域経済の循環に大きな役割を果たしている。今後の製造業・建設業に対する振興施策と方針は。

助金事業、村・県制度資金での保証料負担・利子補給、令和3年度は諏訪園工業メッセの出展料を支援する補助金を新設した。



北原 貴穂 議員

大雨被害

問 水路改修の要望への対応は

答 原因究明と適切な対応策を

農林課長 現地確認は行ったが、大雨時の状況確認はしていない。払沢区とともに、土砂流入の原因や防止策も含め、適切な対応策を検討したい。

問 払沢区内、おらほ団地上の湧水汐で昨年度大雨時につまりが発生、復旧には地元住民の多大な労力を要した。エコーラインから現場までをう字溝に改修するよう緊急の要望があるが対応は。

消防団

問 団員確保に向けた支援は

答 消防団と協議し決める

問 近年、消防団員の維持・確保が困難になって来ている。特に団員加入には、理解ある家族の支援、協力が

活動支援策などについて、村と正副分団長会で協議し決める。

問 消防団組織再編成の進捗は

消防室長 出動時に人

実が必要と認識する。活動支援策の一層の充

安全



森山 岩光 議員

問 通学路点検結果と方策は

答 早期改善を目指す

問 昨年、千葉県八街市で下校中の児童が飲酒運転のトラックにはねられて死傷した事故を受け、県では市町村と合同で一斉点検した。その結果、当村の通学路の要対策箇所は14箇所であった。村の改善整備策は。

建設水道課長 歩道や横断歩道、街灯の設置、見通しの悪い箇所の改善、縁石や路面補修などで補修など即対応できるものは対応し、横断歩道などは県へ要望し早期改善を目指す。

子育て

問 保育の下限変更の理由は

答 公平性を担保するため

問 就労による保育の必要性の下限時間を48時間から64時間にする必要はあるのか。

問 負担が同じなのであればサービスを低下させてまで近隣と合わせる必要はないのでは。

子ども課長 1日2時間しか働いていない保護者が預けていることに対する批判、茅野市、富士見町は64時間の中で不平等という課題がある。

子ども課長 サービスの低下につながることは考えていない。

子ども課長 子育て支援会議の所掌事務ではないため必要ない。

問 原村学の成果は。

教育



半田 裕 議員

問 原村学に寄付金の活用を

答 検討する

教育長 生徒自らが課題を見つけ、解決に向けて自主的に取り組む学びとして非常に重要。

問 原村学への予算づけはどうか。
ふるさと寄付金を活用してはどうか。

子ども課長 学校運営の経費ではないため公費での予算づけはない。ふるさと寄付金の活用は寄付される方の意思と合致すれば活用も可能と考える。

教育

問 中学前横断歩道移設

答 安全性を優先する

問 新設の駐車場へは現在ある横断歩道を渡ると、雪があり道幅の狭い路肩を歩く。危険ではないか。

答 基本的にはPTAから要望のある危険箇所を重点的に点検している。

子ども課長 学校側へ確認したところ、危険箇所として上室内信号西側日陰部分の指摘があった。県へ依頼して

子ども課長 当初は行事の時という想定だったが、実際は部活動時の送迎が多い。安全性を優先させ、可能なら移設したいが公安委員会との相談になる。

建設水道課長 要望が無かったので検討していなかった。

観光

問 好評だった村内宿泊者へのもみの湯補助の予定は。

商工観光課長 令和4年度も国の補助金を活用して実施。

問 割引を続けていくことは、村が事業者支援を継続して行い、優良事業者を増加させ活性化する効果が得られメリットも大きい。

商工観光課長 感染症の状況にもよるが、村の単独事業としての継続は難しい。

公共交通

問 担うべき公共交通の姿は

答 移動手段がない方を優先

問 行政が担うべき公共交通の姿とは。

村長 学生や高齢者など移動手段を持たない方を優先とした公共交通。また、観光路線や福祉輸送の役割も視野に入れながら体制は検討していきたい。

に、実証実験では、村内かつ近隣の主要施設との往来を可能としたオンデマンド輸送サービスを予定している。1、2台のタクシーをアプリまたは電話で配車することを想定して

いる。手続きだけでも最低でも4か月は必要。住民への周知も勘案すると、秋から冬にかけての実証になる。早い段階での実証運行内容の決定が必要。現在、検討を進めている。

原村学

問 中学生から「原村学で取り組んでいるワインをふるさと納税返礼品にできないか」という声がある。どうか。

村長 子どもたちの意欲・取組みは評価している。しかし、返礼品となると完全に経済活動となり、中学生を巻き込んでよいのか。また、確保できる量や法的な免許の問題などハードルがある。ひとつひとつ検証しながら、万が一それが可能であれば、時間をかけるやっていくべきと考える。



佐宗 利江 議員

問 宿泊へもみの湯補助

答 次年度も実施予定



松下 浩史 議員

問 ワインをふるさと納税返礼品に

答 ひとつひとつ検証をして

下限面積

問 下限面積50aの見直しを

答 50a未満経営者は少ない

問 農業は、地方での仕事の選択肢とも考えられる。取得しやすく長く農地を有効活用できる施策として、下限面積見直しを考えては。

農業委員会委員長 総

会において、下限面積

が適当か確認している。

今まで見直しの検討を

した経過は一度もない。

現状の営農状態から

は、別段面積の設定は

必要ない。中心経営体

への農地集積率は55%

で県下トップクラス。

50a未満の耕作者は

15・5%、零細な経営

者は少ない。

問 平成29・令和元年新規参入ゼロ、担い手不足にあたらないか。

農業委員会委員長 茅

野市は農地付き空き家

の取組みを実施、要望

があれば、検討も必要。

問 農地の再整備、水田の畑地化などの推進も考えては。

村長 J A組合長とも

協議をした中で、一つ

の方向性としては非取

組むべきことと考える。

事業継承

宮坂 早苗 議員

問 事業継承の体制整備を

答 強力に進めていくべき事

問 中小企業・農業等個人事業主の無くなっ

ては困る技術や施設の

事業継承についての課

題共有、村内事業主の

技術・設備を使った新

たなものの作りなどに

ついて協議を進めては。

村長 強力に進めてい

くべき事項であると思

えている。

商工観光課長 今後、

相談の需要が増えてく

ることを想定している。

補助金等の検討も必要

と考える。様子を見て

いきたいと考える。

建設

問 他自治体との道路整備は

答 三市町村での協議がテーマ

問 地域的に村道と町道が入り組んでおり舗装工事時期が違うので村・町間での調整は。

建設水道課長 3市町

村で八ヶ岳西麓の共同

宣言をした中で、環境

分野や観光分野など共

通課題を解決していく

話があり、村から道路

分野をテーマとして提

出してあり今後の課題。

問 各区・自治会から

の道路整備や補修工事

オーバーレイなど要望

含め建設課の進捗状況

や計画など住民に広報

するべきでは。

建設水道課長 各区や

自治会等の要望に対し

ては理由等を添えて回

答しているのが住民に

は区や自治会での周知

をお願いしたい。村

内の舗装道路は全長2

50キロメートルあり、

全ての改修には予算的にも難しい。現在、集落内の老朽化した舗装を更新する工事を行っており、順次計画的に進めていく。

商工

平出 敏廣 議員

問 原ブランド特産品事業

答 原ブランドの知名度高める

問 原ブランド認定商

品について販売や宣伝

方法が認定者、事業者

任せになっていないか。

現在の認定登録数は

3事業者4商品であり

新規申請を増やすには

事業者にも魅力を感じ

て貰えることが必要。

販売所などの検討も。

商工観光課長 現在の

4品中3品は常時販売

までの生産体制がない

ため、数量確保が必要

新たな認定品が増える

事等のなかで、そこに

行けば購入できるとい

う仕組みもつくりたい。

乳児保育園を 原村につくりたいプロジェクト

意見交流会には全議員が参加され、私たちの説明や出産を控えたお母さんの切実な声に耳を傾けていただきました。村立保育園に入れない10か月未満児や、1歳～2歳児の乳児保育園の必要性や私たちの姿勢や思いを「重く受け止める」との芳澤議長のお話はとても励みになりました。4月に開

園しましたが、今後は一日も早く認可を得られるようにご支援をお願いしたいと思います。



乳児保育園を原村につくりたいプロジェクト
代表
橘田 美千代さん

12月22日「乳児保育園を原村につくりたいプロジェクト」との意見交換会を行いました。
生後10ヶ月未満児の保育希望者がおり若い世代や移住者は乳児を預ける知り合いもなく仕事上の都合から10ヶ月未満の乳児保育園（小規模保育事業A型）が必要との願いを受け「原村に乳児保育園を作りたいプロジェクト」を開設したこと。
開設した経緯、乳児のニーズ、保護者の願いやそれに伴う必要な保育士等の確保、費用、園舎の具体的な設備、環境整備等、村認可への相談状況などの説明を受けました。
議員から乳児は親のスキンシップが大切ではないか、産後57日と言う短い期間で親と離れての保育は心配で不安との質問に、保育にあたっては乳児に寄り添うことで心と体が発達し信頼関係が得られる心配はないとの回答がありました。
プロジェクトの姿勢、乳児保育園開設に向けての強い思いを受け止めました。

住民と議員の意見交換

女団連から以下の質問を受け、
書面で回答しました。

1. 議員の得意分野
2. 女団連の男性役員就任
3. 農業被害の助成制度
4. 村内の貧困問題

初めての参加で緊張しつつも楽しみにしていましたので、懇談会の中
止は残念ではありましたが、書面で
回答をいただけて、議員の方々それ
ぞれのお考えをじっくりと知ること
ができました。こちらの質問の意図
を汲み取ることが大変だったり、表
現しにくいところもあったりだった
と思いますが、親身になって考えて
くださるのが伝わってきました。あ
りがとうございました。

女性団体連絡協議会
村上 香菜子さん

女団連では村会議員さんとの懇談会を毎年開いて、全議員さんの
参加を頂いています。

今年も2月14日に予定していましたが、コロナの感染拡大によ
り中止となってしまう、急遽、私たちが提出した質問に答えるとい
う形で回答を頂き、ありがとうございました。

私たちがそれぞれの団体の活動の中で、感じ
ていることや、女団連として何をやっていけば
いいのかななどの疑問に、丁寧に答えてくださ
り、話し合いの中では活動のヒントをいただ
いたりしています。これからも、より良
い村づくり、地域づくりのために、この
懇談会を続けていきたいと思っています。



女性団体連絡協議会
小倉 佳美さん

女性団体連絡協議会

村では、「みんなで輪を持ち 子育て・子育て応援のむら 原村」をモットーに、子育て支援に取り組んでいます。子育てを経験された方や最中の皆さんに、村内の子育て環境について良い所や、課題・要望などをお聴きしました。

保育園、小・中学校が徒歩圏内で近くにあるので便利。子どもにとっても見慣れた環境で生活できるので安心です。

永井 慎也さん
(室内)



校庭リンクは原村ならではの風景、他市町村では少ないスケートの体験を何度もできて、子どもたちも喜んでいます。

篠田 さや香さん
(南原)

四季を感じられる環境の中、伸び伸びと育っているのが嬉しい。また、移住者も多く、新しい発想で活気づけてくれていると思います。

大内 里奈さん
(大久保)



未満児保育、看護師常駐、原っ子、学童などのサポート体制や食育への取り組みが原村のいいところだと思います。

中村 嘉信さん
(中新田)

未就園児の他のお友達とのふれあいの場があるのはありがたかったです。

永田 礼さん
(大久保)



首都圏からのアクセスも良く、村内のインターネット環境も整備され、遠方通学のサポートもあり、働きながら子育てできるところが魅力です。

塩澤 英地さん
(原山)

原村

での

子育て

を考える

地域の輪の中で

食育への取り組みで、給食の食材に地元農家さんの野菜が使われている。

地域の方に見守られている安心感がある。

ジュニア教室や原っ子の森は、家庭では難しいことを子どもに体験させることができるのでありがたい。

移住された方々との交流は元から住んでいた者にとっても原村の新たな発見になっている。子どもたちにもそれを伝えながら一緒に楽しむことができる。

課題と要望

- ・歩道がない通学路で児童の脇を車両が通り抜ける。冬季は、除雪により路側帯が歩けなくなる。子どもたちが車道を歩くことがあるので危険を感じる。
- ・高校への通学手段が限られており、午前授業で終わったときには帰宅方法がないため、どこかで時間を潰さなくてはならないことがある。
- ・新しい事を受け入れたり、改革を起こすことが上手ではないところがある。
- ・発足した学校応援団を活用してほしい。

子育て・子育てを応援

子ども医療費の無償化やインフルエンザ予防接種の補助は本当にありがたい。

放課後の子どもの居場所として、学童クラブや原っ子があることは、共働き家庭やひとり親家庭にとって非常に助かっている。

子どもの教育に情熱を持っている大人がたくさんいる。

課題と要望

- ・子育て支援センターは、利用する子どもや親、見守る職員にとっても使いやすいものになってほしい。下校後に居場所があることを強く希望する。
- ・「今あるルールが本当に子どものためになっているか？」高額な制服や指定ジャージに合理的な意味があるのか。
- ・子育てに関する事業や村の取り組みを、わかりやすくPRしてほしい。
- ・「村としてどのような子どもに育ててほしいのか？」という基本理念に基づいて場当たりのでない子ども施策を実施してほしい。

みなさんの

声を聴かせてください

「住民に開かれた議会」をめざし、「広聴」の機会づくりに努めます。



(本人左から2番目)

日達 あけみ さん(上里)

原村生まれの主人のもとに嫁いで36年、原村に移り住んで20年の月日が経ちました。世界一素敵な村に住まわせて頂き感謝です。

原村は自然が豊かで村民の方々のやさしさも大好きですが、やはり、村のお荷物となるハコモノ、いわゆるいつ朽ち果てるともわからないアミューズメントパーク等が無いシンプルなところが誇りです。よくカナダ、北欧(私は行ったことがありませんが…)の風景に似ているともいわれている原村。これからもこの美しい自然を守り、環境に配慮し、子どもたちへ負の遺産を残さない村であってほしいと希望致します。



小林 朝治 さん(室内)

原中学校の用務員として勤務し、12年になります。毎年3月に、大きな夢や希望を抱いて卒業生達が巣立っていく姿を見て、成長を感じ嬉しく思います。原村で育ち、原村という故郷を誇りに羽ばたいてほしいと願います。

私自身も健康のために歩くようにしていますが、最近交通量が多く、危険箇所が気になります。狭い道路に歩道がない通学路は、整備し、子ども達が安心して通学できる環境を作って頂きたいと思います。

また、子ども達と一緒に、村民が安心して暮らせる、美しい村であってほしいと思います。

編集後記

コロナの影響で、行事への参加や各種団体との交流の機会が減り、住民の皆さまからの声をお聴きできる貴重な場が失われてしまっています。

こうした状況の中、議会だより編集担当の広報広聴特別委員会では、ご意見を伺う機会を従前の大勢が集まる地区懇談会などの形から、編集委員による個人へのインタビューやアンケートに答えていただく形に切り替えました。

多くの方のご協力を得て、前々号から「コロナ緊急経済対策」「災害に備える」そして、今号は「子育てを考える」をテーマに声を集めて掲載することができました。本当にありがとうございます。今後も皆さまのもとに足を運び、声を聴かせていただきたいと思います。(松下記)

議会広報・広聴特別委員会

委員	委員	委員	副委員長	委員長
宮坂	早苗	嘉徳	岩光	浩史
百瀬	森山	松下	松出	平出
廣	敏	廣	敏	廣

議会の傍聴にお出かけください

次の定例会は

5月27日(金)

開会予定です

- ・役場2階総務課前で受付後、傍聴席にお越しください。
- ・会期中は委員会の傍聴もできます。

[問い合わせ]

議会事務局 ☎0266-79-7951